

とうきょう すくわくプログラム実践報告書(八王子市)

施設名	八王子市立恩方保育園
-----	------------

1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

自然

＜テーマの設定理由＞

・当園は、山々に囲まれ、園庭には野草スペースや四季を感じられる植栽があり自然に囲まれた環境である。日々、自由遊びの中で子ども達が自主的に自然物を取り入れる姿が見られる。さらなる興味関心を深め、自然遊びの楽しさを味わえるようこのテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

夏 昆虫採集・観察・飼育・虫フェス（夏祭り） **秋** 葉っぱの調査・ブーケ作り・草木染
冬季 色々な氷を作ろう **通年** 天気の観察 虹チャンス（虹の発見） 植物を植える

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

デジタルカメラ、虫の飼育ケース、餌となるもの、顕微鏡、フェンス（野草スペースの環境を整える）、天気の図鑑、拡大鏡、観察ルーペ、グルーガン（ブーケ作り）、Tシャツまたはタオルなどの布（草木染）、すりこぎ、すり鉢、スポイト、試験管、トレー、ソリなど。

4. 探究活動の実践

＜活動の内容＞

- ・植物を植え、自然物を使ったごっこ遊びや製作を楽しむことで、植物の特徴や違いを知り、季節の移り変わりを感じる。
- ・ツマグロヒョウモンとアゲハ蝶の幼虫、カブトムシ、バッタなどを観察、飼育することで虫特有の性質を知り、自然の美しさや命の尊さに触れる。
- ・空を観察し、雲の形や大きさ、空の色の違いを知り、天気の変化に気づく。
- ・雪や氷を観察し、寒さの中で生まれた自然物を使って表現することを楽しむ。

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

・身近な環境の中での自然遊び。園庭の植栽や、昆虫採集、園周辺の天候の変化や季節の変化を楽しんできた。

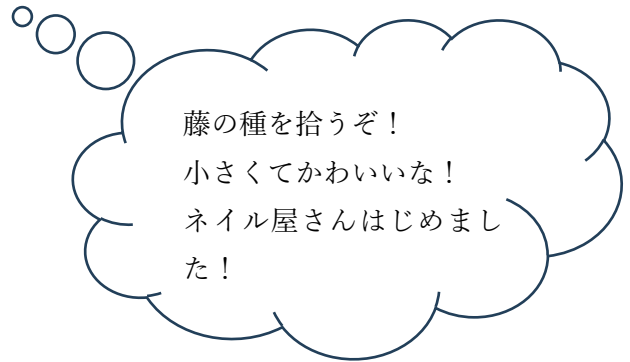
春

サイネリアの花を庭にの花壇に植えたところ、花びらをとり付け爪に見立て、小枝や葉をネイルの刷毛にし水を塗り、好きな色の花びらを友だちの爪につけてあげ、ネイルごっこが始まる。年長児から異年齢へと広がり、サイネリアの花以外の素材を探し、工夫を楽しんでいた。この遊びをきっかけに、植栽を使ったごっこ遊びが広がる。キャンプごっこ、藤の種集め、オシロイバナを使った色水遊びなど。

初夏から夏の終わり

今年も、ビオラにたくさんの「ツマグロヒョウモン」幼虫が見つかる。「去年もいた幼虫だ！」と気が付き、飼育ケースに入れて観察を始める。餌となる草を摘みケースに入れるが、「食べないね。」「おいしくないのかな」と気が付く。「どの葉っぱが好きなのかな？」と問いかけると、幼虫がいたところの植物なら食べるかもという考えに至り、ビオラを入れる。翌日、幼虫の糞も確認できるようになった。蛹になり観察すると、身体の部分に金色の模様が見られ「すごいきれい」と驚いていた。「蛹も動いている」ということに気が付き、蛹の中で生きていることを実感する様子があった。ある朝、蝶になっていることに気が付き、「ちょうちょになった」と、とても喜んでいた。みんなで見守った蝶は、庭に離し「来年も卵を産みにきてね！」と期待する声があった。

庭の野草園の虫探しに夢中になり、トノサマバッタ、カマキリ、ショウリョウバッタを採取する「観察したい！保育園で飼ってみたい。」ということになり、大きな水槽の中に、入れ観察をする。野草園に生えている、土を入れ、草を植えると、野草園と同じ環境になりエノコロクサを食べる様子を観察することができた。カマキリとバッタがはちあわせになると、バッタを捕食する姿が間近で見られ、驚きの声を上げていたが「カマキリは、お腹がすいてたから仕方ないね。」「お腹と頭をたべるんだね。」と、昆虫によって食べる物が違うことに気が付いていた。キリギリスを捕まえケースに入れると、「大変！カマキリが食べられている！」と気が付き、カマキリよりも強い昆虫がいたことに驚いていた。秋近くなり、野草園の草も枯れ始め、「餌がなくなってきたねどうする？」と問いかけると、「にがしてあげようよ、卵を産むかもしれない」話し合い、「虫さんお別れパーティー」計画し、野草園に逃がすことにする。この経験により、次の年に生命がつながれていくか、疑問が次年度に続くこととなる。



秋から冬

キンモクセイの花が咲き始めると、「いい香りがする」落花した花を集め「香水作り」を楽しむ。イチョウ、ナンテン、ドウダンツツジが紅葉し、色の変化に気が付き「きれいだね！」という声がたくさん聞かれた。保育士が、紅葉した枝を切ると、小さな枝に切りそれぞれを組み合わせ、ブーケをつくり「ママにプレゼントするんだ。」プレゼントづくりを楽しむ。手押し車を収集車に見立てて、落葉したイチョウを掃除する遊びが、日々続いていた。

寒さが厳しくなると、「氷を作りたい！」ということになり、プリンカップに水をいれ日陰で一番寒いところを探して仕掛ける。翌日登園することを楽しみにしていた。庭の南側、北側で氷方が異なり、どこが凍りやすいか子ども同士で、情報交換していた。



年間

天気についての絵本を読んだことをきっかけに、「飛行機雲が出ると雨が降る」「黒い雲と強い風が吹くと、雷雲が来る」などを知り、実際の空の様子を観察するようになる。雷や台風の時に気を付けなくてはいけないことにも興味を持つきっかけになった。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

・子ども達にとって身近な自然が、園庭であることに改めて気が付いた一年であった。畑に野草園を作ったことで昆虫に触れる機会ができた。植栽も四季によって変化があり遊びに取り入れることで様々なごっこ遊びができた。しかし、自然物を身近に取り入れるためには、保育士も知識を増やしていく必要がある。自然に触れるための環境づくりと、持続的にこの遊びが継承されることこそ、大きなテーマと感じた。